

思想史と社会史の弁証法



[思想史と社会史の弁証法_ダウンロード1](#)

著者:川越 修(編)

出版者:御茶の水書房

出版时间:2007-10

装帧:

isbn:9784275005489

良知の研究は、思想史研究と歴史研究を不可分のものとし、たえずその架橋をはかり、その橋をみずから往き来し続けながら橋自体の作り直しを図っていた。本書では、こうした研究の歩みを再構成する資料として、没後、その蔵書の散逸を防ぐため、テーマごとに蔵書の受け入れに応じた一橋大学附属図書館(一八四八年革命関連)と慶應義塾図書館(マルクス主義関連)の所蔵目録を収録した。

作者介绍:

1(西洋近代思想史の批判的再検討-カント最晩年の政治思想におけるロック批判の脈絡

国家・法・人格-マルクス「ヘーゲル法哲学批判」の問題性について)

2(アンドリアン=ヴェルブルク『オーストリアとその未来』と三月前期の諸問題

全ドイツ労働者協会におけるラサール崇拜の形成

反セム主義の地下水脈-ワグナー論争をめぐって)

3(王権とユダヤ人特権-ポーランド・ユダヤ人の「一般特権」成立の経緯

検証・一九四一年リヴィウのポグロム)

良知力コレクション目録(一橋大学附属図書館所蔵

慶應義塾図書館所蔵)

目录:

[思想史と社会史の弁証法_ダウンロード1](#)

标签

马克思主义及其研究

良知力研究

良知力及其研究

日本马克思主义及其研究

思想史

哲学

历史

日本研究

评论

[思想史と社会史の弁証法_ダウンロード1](#)

书评

[思想史と社会史の弁証法_ダウンロード1](#)